

第2回熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策 実行計画策定に関する意見聴取委員会

計画骨子案に関する主な論点

2019年10月7日

熊本連携中枢都市圏温暖化対策実行計画
事務局

主な論点①

論点1:なぜ連携中枢都市圏で共同策定を行うのか。

- 圏域13市町村で共同策定を行うことには、骨子案に示す「三つの意義」がある。また共同策定メリットとして、①施策の補完効果、②施策の波及効果、③施策の推進効果が考えられる。
- 上記を踏まえ、圏域として検討すべき施策・取組として、①施策・取組の共有により各市町村が取り組むことができる施策・取組、②地域特性を踏まえ、各市町村が取り組むべき施策・取組、③圏域全体で取り組むべき施策・取組の三つの視点を設定し、骨子案での施策・取組案を各視点から更に検討する。

論点2:圏域の地域課題・ポテンシャルに対する現状認識は妥当か。

- 基礎調査(地域特性、再エネ賦存量・省エネポテンシャル、GHG排出特性、住民事業者アンケート)の結果からどのような示唆が得られるか。
- 基礎調査からの示唆を踏まえて導出される、各市町村及び圏域としての地域課題、ポテンシャルとは、どのようなものか。

主な論点②

論点3: 地域特性を活かした圏域の目指す姿はどうあるべきか。

- 地球温暖化対策を巡る社会情勢、圏域の地域課題・ポテンシャル、各市町村の政策方針、住民・事業者の意向等を踏まえ、圏域としてどのような基本理念、目指す姿を掲げるか。
- 基本理念・目指す姿に基づき、今後の施策の方向性を示す基本方針として、どのような方針を示すか。

論点4: 圏域の削減目標はどのような考え方に基づき設定すべきか。

- 13市町村全体の温室効果ガス削減目標をどのような考え方に基づき、どのような数値を設定するか。
- 圏域全体での削減目標を達成するため、各市町村の温室効果ガス削減目標をどのような考え方で設定していくか。

主な論点③

論点5:くまもと地域循環共生圏を実現に向け、どのような施策・取組が必要か。

- 施策の重要度、推進度から施策の類型化等を行い、骨子案における施策・取組を設定しているが、本圏域で地域循環共生圏を実現していくための施策・取組として十分であり、かつ推進可能か。
- 論点1で示した三つの視点に基づき、各施策をどのように位置づけるか。また各市町村の地域課題・ポテンシャルに基づき取り組むべき施策に対し、どのような取組が考えられるか。